



# 1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る

## 第18回(10/16) 荒井幸代先生推薦 ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

### Book1

#### 生物と無生物のあいだ

著者: 福岡 伸一 出版社: 講談社

コメント: 分子生物学を対象としつつ, 研究への姿勢などが織り込まれている。研究者になろうとしている人には面白い。



### Book2

#### うそつきは得をするのか 新ゲーム理論で読みとく人間関係の裏事情

著者: 生天目 章 出版社: サイエンス・アイ新書

コメント: 社会システムを考える上の理論的枠組みであるゲーム理論を身近な事例を用いてやさしく解説。ゲーム理論は私が学生の頃には1冊しか専門的教科書がなかった。今やよりどりみどりで溢れている。一方, 案外知らない人もいる。大学生なら, 特に人間を対象として数理的に物事を語りたい人にお薦め。



### Book3

#### ゲーデル、エッシャー、バッハあるいは不思議の環

著者: ダグラス・R.ホフスタッター 出版社: 白揚社

コメント: 世界のベストセラー。時間のある大学時代にこそ読める本。数学, 論理学, 工学, 人文学, 芸術, 全ての学問は独立に語れないことがわかる。



### Book4

#### 子どもが減って何が悪いのか!

著者: 赤川 学 出版社: 筑摩書房

コメント: データの利用, 情報の解釈など, 統計学を利用する立場から少子化を科学的に考察する一方法論が書かれている。あまのじゃくの私はまずタイトルに魅かれた。グローバル視点で物事を考えることを優先する教育をしているにもかかわらず, 日本の少子化の問題を深刻に考えるのは, ミクロスコピックな利己的視点かもしれない...2. のゲーム理論を考えつつ, 読むとさらによい。常に, 異なる視点で物事を捉えることの必要性を知る上でお薦め。



### Book5

#### 爆笑問題のニッポンの教養 万物は渋滞する 渋滞学

著者: 太田 光 田中 裕二 西成 活裕 出版社: 講談社

コメント: 交通, 情報ネットワーク, あなたの頭の中 など 詰まってしまっても身動きがとれない状況を打破するための数学モデルをわかりやすく解説。「渋滞」の功罪を考える機会をくれるはず。推薦者は渋滞こそ“人間の限定的合理性”を説明する最“興”の例だと思う。遊園地の混雑, 連休時の道路, 著者は物理学的視点から面白がっているが, 私としては, こちらもゲーム理論と情報理論を念頭に読んでみると, 物理現象を越えた複雑系が少しわかった気になる。

